

2022 年度(2023 年 3 月期)第 2 四半期決算 主な質問と回答

- Q. 好調な受注高が継続している背景は。
- A. 社会のデジタル化や脱炭素化を背景にエレクトロニクス市場・自動車市場が好調に推移し、特に自動車市場が増加した。エリアでは主に日本、北米、中国が増加。為替影響や製品納期の長期化に伴う前倒し受注があったが、これらを除いても過去最高を更新した。
- Q. 第 1 四半期と比べて、第 2 四半期に売上高・営業利益が大きく改善した理由は。
- A. 部品調達難は解消していないが、昨年度から継続して取り組んでいる戦略的在庫の積み増し、代替品の調達、設計変更の効果により生産量を確保できたため。
- Q. 販管費が前年同期比で増加している理由は。
- A. 受注拡大に伴い活動経費が増加したため。また、海外子会社を中心とする人件費や物流費の高騰も影響している。
- Q. 2022 年度通期予想について、下期の受注高が上期実績よりも減少する理由は。
- A. 上期の受注高は過去にない水準となったが、足元ではやや一服感が出ており、受注の勢いは落ち着くと見ている。ただし中長期的には IoT や次世代自動車など先端技術分野を中心に需要は拡大すると考えている。
- Q. 2022 年度通期の営業利益予想を 50 億円から 40 億円に下方修正した理由は。
- A. 期初の想定以上の部材価格高騰、部品調達難に伴う代替設計工数の増加などによる粗利率の悪化、および受注拡大に伴う活動経費の増加を見込んでいたため。
- Q. 受注残高が積み上がっているが、生産増強の取り組みは。
- A. 外部リソースの活用やインフラ整備などにより増産体制を敷いている。部品の調達状況は不安定ではあるが、調達見込みに応じて生産ラインを調整し、生産量を確保するとともに製品納期の正常化に注力する。

本資料は、決算に関する主な質疑応答の要旨を記載したものです。

本資料に含まれる将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに当社が計画・予測したものであり、実際の業績などは今後の様々な条件・要素により異なる場合があります。